

三年間を見通した全体構成

生徒の成長や問題意識に寄り添いながら、道徳の学びが深まるよう、全体構成を工夫しました。一年間の学びの見通しはもちろんのこと、中学校三年間を見通して構成しています。また、学びの効果を最大限に引き出せるよう、教材の配列も工夫しました。

①生徒の成長に寄り添った3つの「シーズン」

年間を3つの「シーズン」に区切り、それぞれに、

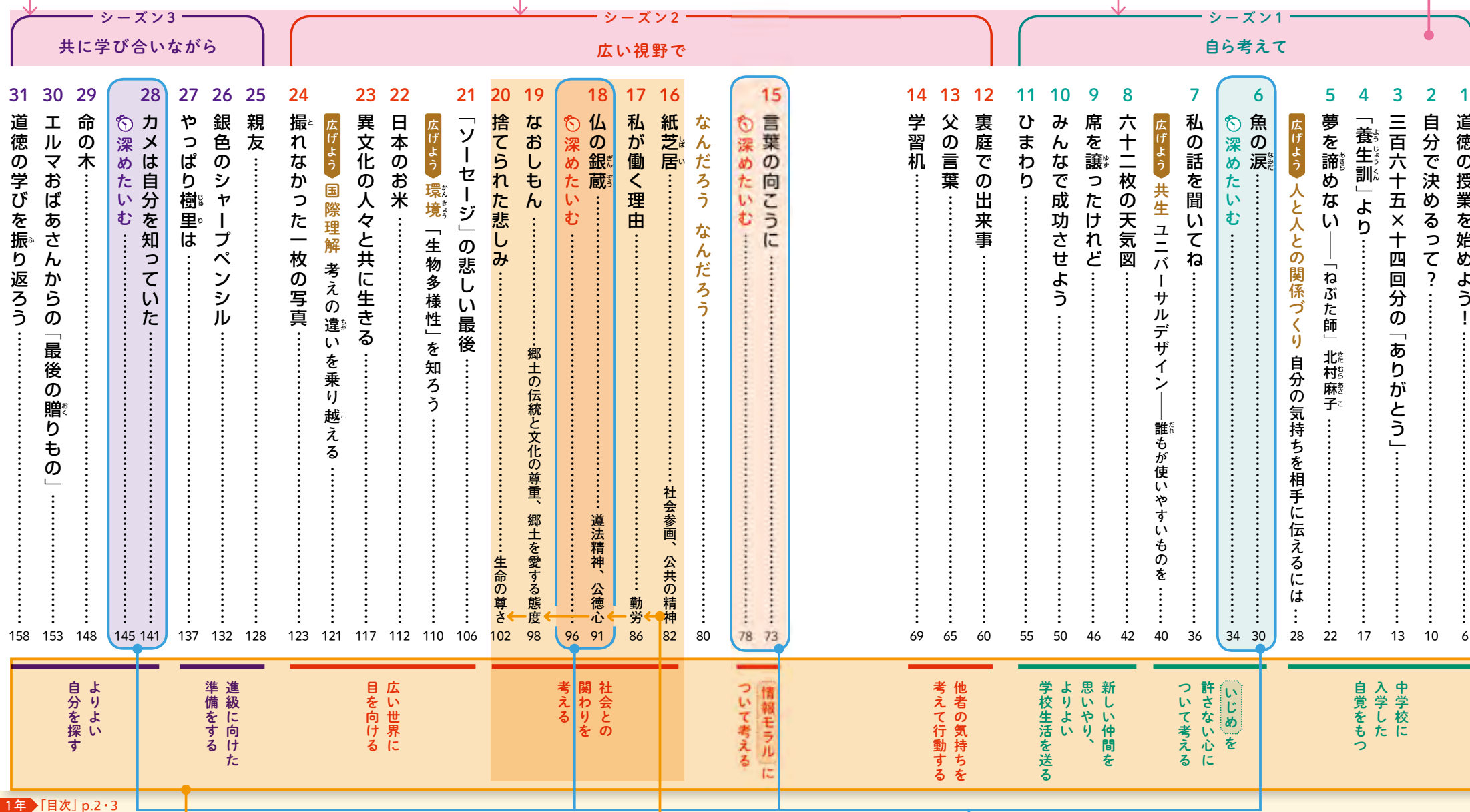
の「シーズン」

生徒の発達段階を踏まえた学びのテーマを設けています。

学びを振り返り、次の学年への意識を高めます。

学校生活から社会生活へと視野を広げます。

学年のはじめに自らの在り方を見つめます。



②ユニット構成で効果的な学びを実現

各シーズンは、生徒の成長と学校生活を意識したテーマをもつユニットで構成しました。ユニット内は、テーマに沿って、有機的に結び付くように、関連性の深い内容項目の教材を配列しました。これらの配列は、各学校の教育目標に照らして、並べ替えたり、教科書以外の教材と入れ替えたりすることも可能です。

③複数時間教材と補充教材で、柔軟な授業計画が可能

各学年に、読み物と併せて2時間で取り組む「深めたいむ」を設けました。読み物教材を通して深めた道徳的価値を、活動を通して確かめ、さらに実感を伴って考えることができます。(→「深めたいむ」の詳細はp.18) 「深めたいむ」は、各校の取り組みに応じて、付録の補充教材との差し替えも可能です。

NEW





道徳の授業を確かな学びの場とするために、道徳の「授業開き」と、学びの「振り返り」を、年間35時間の中に、しっかりと位置づけました。

道徳の授業を始めよう！——「授業開き」教材

1年間のスタートにあたって、学びを見通し、目的意識をもって授業に向かえるよう、各学年の第1教材に「道徳の授業を始めよう!」を設けました。22の内容項目の確認とともに、1年では「どうやって学ぶのか」、2年では「なぜ学ぶのか」、3年では「なぜいっしょに学ぶのか」を積み重ねていけるページとしました。

3年「1 道徳の授業を始めよう!」p.6



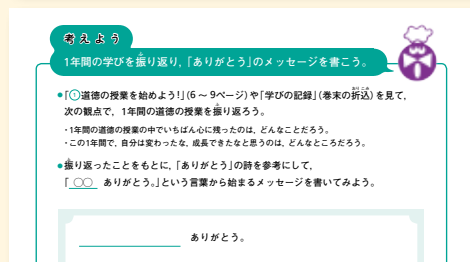
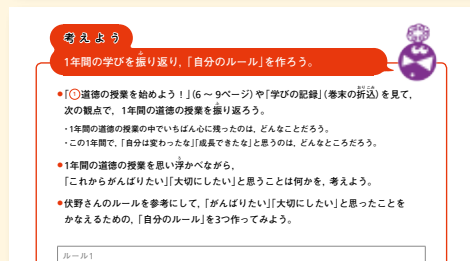
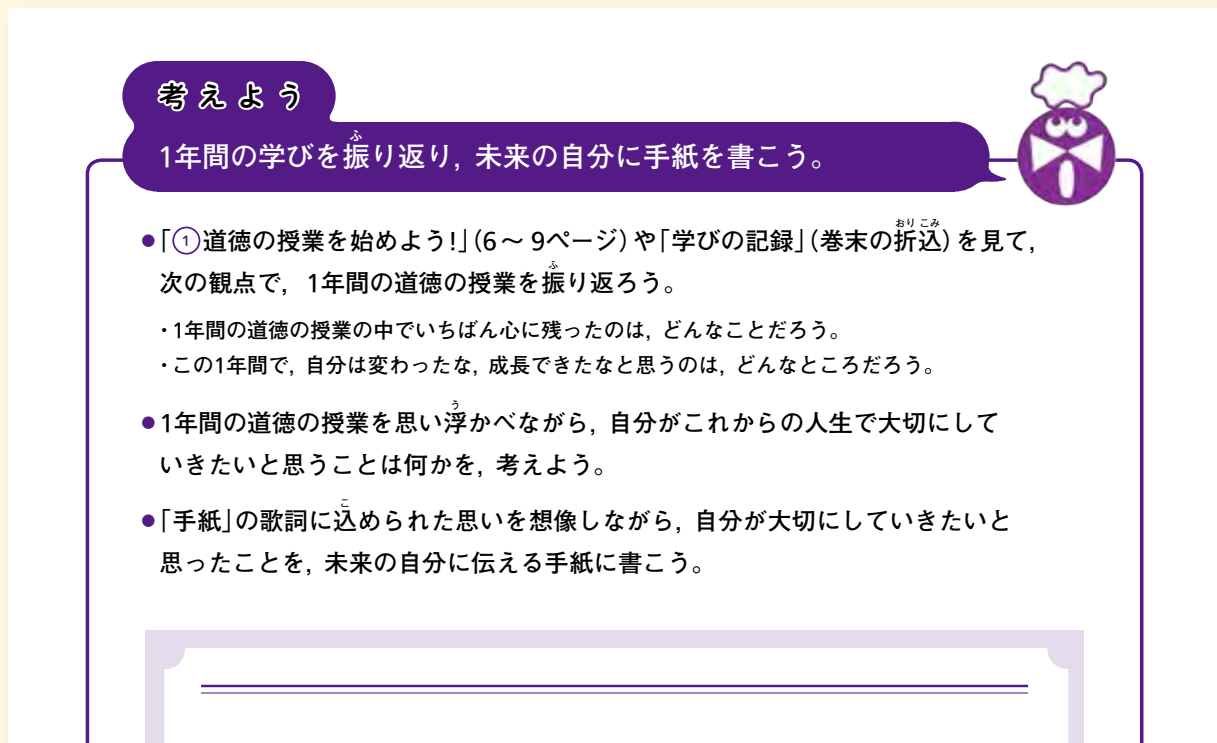
3年「1 道徳の授業を始めよう!」p.8



道徳の学びを振り返ろう——「振り返り」教材

学年の最後に、1年間の道徳の学びを振り返り、自分に生まれた変化やこれからの生き方を見つめる教材を設けました。発達段階に応じた課題を設定し、生徒の意欲を高める工夫をしています。

3年「31 道徳の学びを振り返ろう」p.160



小学校の道徳の定番教材を、付録に掲載しています。小学校で学んだ教材を中学校で学び直すことで、自分の考えの成長を自覚し、答えが一つではない道徳の学びを実感することができます。

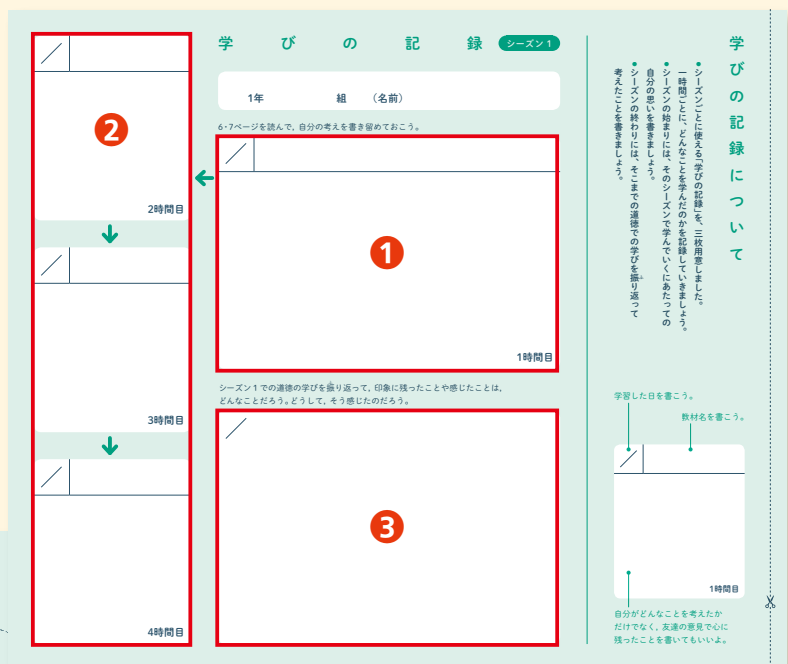
3年「35 付録 手品師」p.175 (小学校6年生時の既習教材)

「学びの記録」(巻末折込)

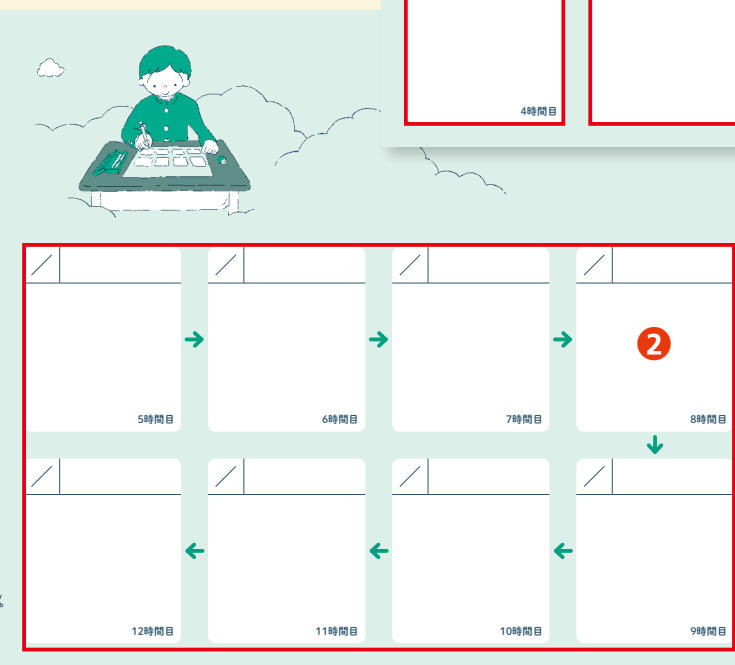
——ポートフォリオ形式の振り返りシート

1時間ごとに、学んだことや、気づいたことが書き込めるポートフォリオ形式のシートを、各シーズンに1枚用意しました。シーズンごとの振り返りや1年間の振り返りに役立ちます。切り離すこともできるので、評価の材料としても活用できます。

- これから道徳を学んでいくにあたって、自分の考えを書きます。
- 毎時間の道徳の学習を通して、考えたことや感じたことを書きます。
- そのシーズンにおける学びの振り返りを書きます。



1年「学びの記録・シーズン1」(折込1枚目 表面)



1年「学びの記録・シーズン1」(折込1枚目 裏面)

教材と「てびき」の工夫

教材は、一時間で扱うのに適した分量を意識して作成しました。また、一時間の学びの道すがらわかる「てびき」を用意し、考え、議論する時間が十分に取れる構成にしました。



遵法精神、公德心

16

闇の中の炎

文部科学省
編集委員会 改作
田中海帆 絵



3年「16 闇の中の炎」p. 77

「ああ、だめだ。」

理沙は、描きかけのスケッチブックをビリビリと破った。

明日がコンクールに出す作品の下絵を提出する締め切りなのに、全然描けない。理沙は大きくため息をついた。

去年の作品は自分でも手応えがあった。先生もすごく褒めてくれて、来年は入賞を目ざせるよと励ましてくれた。期待してくれているのに。今年は出品すらできないかもしれない。

不安とあせる気持ちを打ち消すように、理沙は本棚から一冊の本を取り出した。先週行った絵画展で父に買ってもらった画集だ。ばらばらとめくっていく理沙の手は、あるページで止まった。理沙の目はそのページにくぎ付けとなった。暗い夜の闇の中に、赤い炎が燃えている。その炎を囲んで座る人々の姿が描かれた版画だった。

たちまち理沙の中に、一つのイメージが浮かんだ。火と、それに引きつけられる人々。理沙はスケッチブックを

は言葉を続けた。

「だけど、その友達は、気にしてるんだね。なんで気になるんだろうね。」

「うん。わからないけど。」

「お父さんや理沙が、かまわない、って言ったら、気にならなくなるのかな。」

理沙は黙ったまま、自分を見つめる父から目をそらした。

「その友達は、なんだか自分への言い訳を探してるように見えるな。そんな気持ちでいい作品ができるんだろうか。作品はずつと残るんだよ。」

顔を上げた理沙と目が合うと、父は優しい声で続けた。

「その友達の気持ちをもっと聞いてあげたらどうかな。本当は、その子はもうわかってるんじゃないか。自分がだめだと思ったらだめだって。」

理沙の胸に父の最後の言葉が響いた。

部屋に戻った理沙は、ずっと見ないでいたあの版画をもう一度見た。暗闇に浮かび上がる赤い炎。その炎の筋が周りの人々をかすかに照らし出している。

自分がだめと思ったらだめなんだ。

理沙はそつと画集を閉じて本棚に戻した。あの作品を完成させることはできない。新しい作品を描き始めても、もう締め切りには間に合わないだろう。でも……。

理沙はスケッチブックを取り出すと、夢中で鉛筆を走らせていった。

考えよう

法やきまりを守る心の源とは、何だろう。

- 画集を見て「描ける。これならきっと。」と思ったとき、理沙は、どんな絵が描けると思ったのだろう。
- 夢中で鉛筆を走らせながら、理沙は、何を考えているだろう。

見方を変えて

- 理沙の父は、理沙に、どんなことを伝えなかったのだろう。

つなげよう

- 自分や相手の権利を守るとは、どういうことだろう。また、果たさなければならない義務とは、どんなものだろう。

81

主体的, 対話的で深い
学びを実現する「てびき」

学習のめあてと発問は、教材との区切りがわかりやすいよう、横組みで提示しました。

● 考えよう (めあて)

教材を通して何を学ぶのかを意識できるよう、めあてを明示しました。生徒の主体的な意見や、自由な発想を妨げることのないよう配慮しています。

● 発問

2問で構成し、発問の意図を明確にしました。

- ① 道徳的な問題を明らかにする問い (課題の設定)
- ② 道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い (中心となる発問)

さらに、最後にもう一度、「考えよう」に掲げためあてに戻って、本時のまとめとして活用することもできます。

発問の他にも、教材の内容に応じて、問いや呼びかけを提示しました。

見方を変えて

生徒が、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、上の発問とは切り口を変えた問いを設定しました。

つなげよう

他教科や日常生活との関連、他教材との関連、関連する図書の紹介等を、教材の内容に合わせて示しました。

内容項目の表示

A～Dの項目を、区別が付きやすいアイコンと、端的な言葉で示しました。



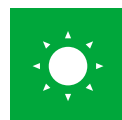
A 自分自身に関すること



B 人との関わりに関すること



C 集団や社会との関わりに関すること



D 生命や自然などとの関わりに関すること